

1 天神山の戦災者慰霊碑



※写真提供 明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会

基本情報

所 在：天神山公園
 住 所：宮崎県宮崎市天満町227-外
 （JR宮崎駅より 宮崎交通バス「大淀中前」下車 徒歩2分）
 建 立 者：宮崎市戦災死没者遺族会
 建 立 年：昭和42年8月9日
 連 絡 先：明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会 0985-48-0220

碑 文

【表】

永久に安らかに

【裏】

昭和十六年十二月八日 真珠湾に端を
 発した大東亜戦争のその末期は日本
 本土も戦場と化し、日毎に敵機の来襲
 を受け、一般市民にも犠牲者を出すに至った。
 宮崎市に於ても戦災死を遂げた者、老
 若男女合せて百余名。
 戦後二十年 残された遺族八十余名は
 今は亡き肉親の不憫を想い、昭和三十
 九年十二月廿二日遺族会を結成し、
 浄財を集め戦災死没者の冥福を祈る
 と共に永久平和の願をこめた慰霊の
 碑をここに建立したるものなり。

死没者名

(故人名)

2 宮崎市戦災死没者慰霊祭



※写真提供 明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会

開催概要 (平成25年度)

歳事名：宮崎市戦災死没者慰霊祭
 会場：天神山公園内 天神山の戦災者慰霊碑前
 住所：宮崎県宮崎市天満町227-外
 (JR宮崎駅より 宮崎交通バス「大淀中前」下車 徒歩2分)
 日時：平成25年7月28日(日) ※例年7月最終日曜日開催
 参列者数：約50人
 連絡先：明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会 0985-48-0220

式次第 (平成25年度)

1. 開式のことば…副会長 仲原義之
2. 奉献の儀…立正佼成会少年部
3. 神事…祭主宮崎天満宮宮司 中原捷博様
4. 献花…前本和男 明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会会長、来賓、遺族、一般参列者
5. 主催者代表挨拶…主催者代表 前本和男
6. 慰霊のことば…来賓代表 戸敷正
7. お礼のことば…遺族会代表 山下均
8. 閉式のことば…副会長 松元道文

慰霊のことば (平成25年度)

明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会主催による、宮崎市戦災死没者慰霊祭が執り行われるにあたり、謹んで慰霊のことばを申し上げます。

先の大戦が終わりを受けてから、今年で六十八年になります。我が国は、終戦の混乱から立ち直り、国際社会に貢献する、熟成した平和国家となりました。わが宮崎市も、合併後、四十万都市となり、安心して住み続けることのできるまちとして発展し続けています。

しかしながら、現在、私たちが当たり前のように享受しております平和と繁栄が、戦争により命を落とされた多くの方々の尊い犠牲の上に成り立っているという事実を決して忘れてはなりません。この平和と繁栄を未来永劫に守りぬいていくためにも、この事実を風化させることなく、次の世代に語り継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた重要な使命であります。

ともすれば、あの悲惨な戦禍の記憶が忘れられがちな現代、明るい社会づくり運動宮崎市推進協議会におかれまして、この厳粛な慰霊祭を実施されますことは、誠に意義深く、主催者に対しまして、心から敬意を表すものでございます。

本日の慰霊祭の開催にあたり、二度と戦争の惨禍を繰り返さないとの決意を新たにするとともに、戦争のない平和な世の中の実現に向け、一層の努力をいたしますことを、固くお誓い申し上げます次第でございます。

ここに百十柱の御霊のご冥福をお祈り申し上げ、合わせてご遺族の皆様方のご多幸を心から祈念いたしまして、慰霊のことばといたします。

平成25年7月28日
 宮崎市長 戸敷 正

3 都城空襲犠牲者追悼碑



※写真提供 都城市

基本情報

所 在：神柱公園内 忠霊塔広場
 住 所：宮崎県都城市小松原町1146-16
 (JR都城駅 徒歩10分)
 建 立 者：都城空襲犠牲者遺族会
 建 立 年：平成11年8月5日
 連 絡 先：都城空襲犠牲者遺族会 0986-38-2500

碑 文

【表】

都城空襲犠牲者
追悼碑

【裏】

(故人名)

碑文

第二次世界大戦の末期、米軍は沖縄本島への上陸に先立ち、南九州全域の軍事施設を攻撃した。都城は昭和二十年三月十八日早朝初めて空爆され、以降終戦まで二十回余の無差別爆撃によって、街は廃墟と化し多くの尊い人命が奪われた。街は戦後いち早く復興したが、空襲犠牲者については半世紀余も放置されてきた。戦後五十年の行事を通し「空襲犠牲者の掌握なしに、都城の戦後は終わらない」と、調査がはじまった。治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟県南支部と都城市の積極的なとりくみによって、四十四名の子供をふくむ八十八名の犠牲者が判明した。

ここに、心から犠牲者を悼むとともに、恒久平和を誓い、追悼碑を建立する。

平成十一年八月五日

都城空襲犠牲者遺族会

4 都城空襲犠牲者追悼会



※写真提供 都城市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：都城空襲犠牲者追悼会
 会場：神柱公園内 忠霊塔広場
 住所：宮崎県都城市小松原町1146-16
 (JR都城駅 徒歩10分)
 日時：平成25年8月5日(月) ※例年8月5日開催
 参加者数：約70人
 連絡先：都城空襲犠牲者遺族会 0986-38-2500

式次第 (平成25年度)

1. 開会のことば
2. 犠牲者名・碑文朗読
3. 黙 禱
4. 神 事
5. 玉 串 奉 典
6. 遺族会代表挨拶…都城空襲犠牲者遺族会代表世話人
7. 来賓あいさつ…都城市長
8. 来賓あいさつ…都城市議会議長
9. 作文朗読・合唱…市内小学校児童
10. 閉会のことば…都城空襲犠牲者遺族会相談役
11. 記念写真撮影

挨拶 (平成25年度)

都城空襲犠牲者遺族会を代表致しまして、一言お礼のご挨拶を申し上げます。
 都城市当局を始め、市民の皆様のご協力により建立して頂いた空襲犠牲者追悼碑の前で、第十五回目の追悼会を開催する事が出来た事をあらためて感謝するものであります。
 本日は、来賓として池田都城市長様、楡田市議会議長様、酒匂教育長様のご出席を頂いております。ご多忙の中、心から御礼申し上げます。
 又、遺族の皆様も遠方から福岡県、鹿児島県、宮崎市、小林市、各遠方からの御出席を頂き、誠に御苦労さまでございます。
 日本は昭和十六年、十二月八日、アメリカ国との間に太平洋戦争がはじまり、昭和二十年八月十五日、終戦まで三年八カ月の大戦の結果、日本は沖縄を始め、国内各地空襲を受けて、想像を絶する多大な被害を受けて敗戦国となりました。
 B29大型爆撃機から昭和二十年、八月六日に広島に原子爆弾が投下された同日に、都城市内もグラマン戦闘機、他中型爆撃機から大空襲を受けて市内は廃墟となり多くの人たちが犠牲になりました。
 小学四年生だった私はあの時の空襲の恐ろしかった事は生涯忘れる事はできません。
 終戦から六十八年目の夏を迎えた日本は今、大変平和な国になりました。しかし今も世界の各地で争いごとが続いております。
 あの悲惨な戦争は二度とおこしてはならない、平和な日が続く事を祈ります。
 本日の追悼式に都城市立西小学校の築山教頭先生の引率の元で、戦争を知らない若い世代の六年生、十二名が出席していただき、平和であることの喜び等について作文を朗読して頂くことになっております。
 六年生の皆さんよろしくお願い致します。
 戦後六十八年経過してお互いに高齢になりました。どうか遺族の皆様方も健康に留意され、いつもまでお元気であります様、ご祈念申し上げます。
 市当局福祉課の皆様には追悼会の設営等到大変お世話になり誠に有難うございます。
 最後に犠牲者のご冥福をお祈り致しまして、挨拶にかえさせていただきます。

平成25年8月5日
 都城空襲犠牲者遺族会
 遺族代表 地頭所 栄八

5 都城市戦没者・空襲犠牲者合同追悼式



※写真提供 都城市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：都城市戦没者・空襲犠牲者合同追悼式

会場：都城市総合文化ホール 大ホール

住所：宮崎県都城市北原町1106-100
(JR都城市駅 徒歩3分)

日時：平成25年8月6日(火) ※例年8月6日開催

参加者数：約740人

連絡先：都城市 福祉部福祉課 地域福祉担当 0986-23-2980 (直通)

式次第 (平成25年度)

1. 開 式
2. 黙 とう
3. 追 悼 の 辞…主催者：市長
4. 追 悼 の 辞…来賓：県知事
5. 献 花
6. 千 羽 鶴 献 納…都城市立西小学校 児童代表
7. 来 賓 あ い さ つ…市議会議長、衆議院議員、参議院議員
8. 遺 族 代 表 あ い さ つ…都城市遺族連合会会長
9. 次世代につながる言葉…「平和へのメッセージ」(都城市立西小学校児童)
10. 閉 式

追悼の辞 (平成25年度)

本日ここに、御遺族や御来賓の皆様のご参列をたまわり、本市の戦没者、殉職者7、232柱ならびに戦災死没者101柱の合同追悼式を挙げるにあたり、謹んで哀悼の誠を捧げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと、昭和20年の終戦から68年の歳月が流れ、また、本日、8月6日は、本市が大空襲を受け、市街地の大半が焦土と化した悲惨な歴史を刻んだ日でもあります。御遺族の皆様のご深い悲しみは、決して消えることなく、その心情を拝察いたしますとき、お慰めのことばもございません。

私たちが今日、享受している平和と繁栄は、明治以降の幾多の国難に際し、国内外において散華され、また、公共の安寧のために殉職されました英霊諸氏の尊い犠牲の上に築かれたものであります。

私情を顧みず、ひたすら祖国の隆盛と国民の安泰を念じつつ、大義に生きられたその崇高なる御意志に、深い感銘を覚えます。

また、かけがえのない肉親を亡くされ、多くの苦難に立ち向かい、家族を守り、今日まで歩いてこられた御遺族皆様方の努力の賜物であります。その御労苦に対し、衷心より敬意を表する次第であります。

本日は、西小学校の児童代表の皆様も参列してくれておりますが、今のこの時代は、国民の大半が戦争の悲劇を知らずに育った世代であります。

未来永劫、悲しみの歴史を繰り返すことのないよう、過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、平和への不断の努力を続けてまいりますことをここに誓い申し上げます。

結びに、戦没者、空襲犠牲者各位の御霊が、永遠に安らかでありますこと、そして、今後とも、わが郷土、都城の繁栄と平安を見守りくださることを願い、併せて御遺族をはじめ、御参列の皆様方の御健勝と、御多幸を祈念申し上げ、追悼のことばといたします。

平成25年8月6日
都城市長 池田 宜永

6 延岡市戦没者合同慰霊祭



※写真提供 延岡市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：延岡市戦没者合同慰霊祭 ※一般戦災死没者を含む
 会場：延岡市公会堂 野口記念館
 住所：宮崎県延岡市東本小路119-1
 (JR延岡駅より 宮崎交通バス「九電前」下車 徒歩15分)
 日時：平成25年4月5日(金) ※例年4月5日開催
 参列者数：300人
 連絡先：延岡市 総務部 総務課 0982-22-7006 (直通)

式次第 (平成25年度)

1. 開式のことば
2. 国歌 斉唱
3. 黙 禱
4. 追悼のことば…延岡市戦没者合同慰霊祭奉賛会会長(延岡市長)、
延岡市議会議長、延岡市遺族連合会会長、宮崎県知事(代理)
5. 献 花
6. 献 奏
7. 閉式のことば

追悼のことば (平成25年度)

本日ここに、御遺族並びに御来賓の皆様多数ご出席のもと、延岡市戦没者合同慰霊祭を執り行うにあたりまして、戦没者の方々の御霊に対し、謹んで追悼のことばを捧げます。

時の流れは早く、数多くの尊い命が失われた先の大戦から、67年の歳月が過ぎ去りました。苛烈を極めました戦闘の中で、愛する家族を案じつつ戦場に倒れた方々、激しい空襲によって命を落とされた方々、そして戦後、遠く離れた異郷の地で無念にも最期を遂げられた方々に思いを馳せるとき、今なお悲痛の思いが胸に込み上げてまいります。

ここにあらためて戦争による犠牲者の方々のご冥福を、心からお祈り申し上げます。また、ご遺族の皆様方におかれましては、最愛の肉親を失い、癒されることのない深い悲しみを背負いながら、数々の苦難を乗り越えてこられました。皆様のそのご労苦に対しまして、深甚なる敬意を表する次第でございます。

さて、私たちの郷土延岡も、今年、市制施行80周年という節目の年を迎えました。また、本市にとりまして、今がまさしく高速道路時代における地域間競争を勝ち抜くための正念場であります。

この八十周年を本市のさらなる発展への契機とし、これからも、高速道路時代における新しい延岡づくりに、市民の皆様とともに全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

終戦から67年が経過した今、我が国では戦後生まれの世代が多くを占めることとなり、先人たちが築き上げた繁栄を甘受する中で戦争の記憶の風化が懸念されており、また、世界の各地では、今なお戦争により多くの人々が犠牲者となり、肉親や祖国を失うという惨劇が繰り返されております。

延岡市に暮らす私たちは、このような状況の中、散華された方々の思いを深く心に刻み、二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう平和への誓いを新たにいたすところでございます。

むすびに、戦没者の方々の御霊が、とこしえに安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆様御健勝と御多幸を祈念申し上げて、追悼のことばといたします。

平成25年4月5日
 延岡市戦没者合同慰霊祭奉賛会
 会長 首藤 正治

7 太平洋戦争延岡空襲殉難碑



基本情報

所 在：今山公園内 弘法大師像前
住 所：宮崎県延岡市山下町2-3998
(JR延岡駅 徒歩15分)
建 立 者：延岡空襲殉難碑建立委員会
建 立 年：昭和53年6月29日
連 絡 先：今山大師 0982-32-5290

碑 文

【表】

太平洋戦争
延岡空襲殉難碑

【裏】

昭和十六年十二月八日勃発した太平洋戦争はわが軍の 真珠湾奇襲作戦により 前半には勝利をおさめたが 米軍の物量と科学戦による攻撃で逆転 昭和二十年八月十五日遂にわが国の敗戦に終わったこの間本土への空襲は激化し軍需工場群を擁した延岡市に於いても二十年三月四日から終戦前日まで十数回の空襲をうけ とくに二十年六月二十九日午前一時十五分から三時間にわたるB29爆撃機四十余機による油脂焼夷弾攻撃は投下約五十万発 市中心部は一瞬のうちに火の海になり その劫火の中を市民は阿鼻叫喚辛うして五ヶ瀬大瀬河原に避難したが まさに戦争が生んだ悲劇であった恐怖の一夜が明けると市街地の大半は一木も残さず焼きつくされ一望焦土と化しているのを市民は茫然と眺めながら肉親をもとめて右往左往するのみであった この焼夷弾攻撃による被害は別記の通りであるが 銃後を護る市民をはじめ学徒挺身隊 産業報国隊など非戦闘員の殉難者は実に三百名を越えた 終戦后三十三年を経た今日各方面の浄財によって 新しくこの延岡空襲殉難碑を建立その霊を弔うとともに悲惨なる戦争の絶滅を期し世界の永久平和を祈念するものである

昭和五十三年六月二十九日
延岡空襲殉難碑建立委員会

【裏下部】

延岡市の戦災に於ける損害

戦災死者 三百余名
重軽傷者 多 数
戦災面積 九十二万坪 (三千四十一平方軒)
被災人口 一萬五千二百三十二人 当時の人口
(七萬二千六百人)
被災戸数 三千七百六十五戸 当時の戸数
(一萬四千三百)

戦災地域

川中地区 新町 柳沢町 本町 南町 中町
北町 船倉町 天神小路 並に本小路
櫻小路の一部
川北地区 紺屋町 元町 博芳町 祇園町の東側
瀬之口 並に萩町 北小路の一部
川原町 春日館通り 第二下出口
恒富地区 三ツ瀬 新小路 並に出口 西小路
本村の一部
南方地区 大貫の一部
軍需工場 日室化学工業株式会社
(薬品部 ベンバルグ部 プラスチック部
雷管部 レーヨン部 ダイナマイト部)
間野航空株式会社等に被害甚大
橋 梁 五ヶ瀬橋 須崎橋 大瀬橋の各一部焼失
恒富地区南方地区の水田に焼夷弾多数投下

西口玄豊謹書
施工者 福原明

8 延岡空襲殉難慰霊祭



開催概要 (平成25年度)

歳事名：延岡空襲殉難慰霊祭
 会場：今山公園内 弘法大師像前広場
 住所：宮崎県延岡市山下町2-3998
 (JR延岡駅 徒歩15分)
 日時：平成25年6月29日(土) ※例年6月29日開催
 参加者数：50人
 連絡先：今山大師 0982-32-5290

式次第 (平成25年度)

1. 黙祷
2. 殉難者諸精霊位回向法要
3. 参加者焼香・献花 (遺族、わかば幼稚園児20名、他)
4. 今山大師住職挨拶
5. 遺族代表謝辞

挨拶 (平成25年度)

昭和20年6月29日未明の米軍大空襲によって犠牲となられた300余霊位の御霊は、戦後68年の今日尚、弥陀浄土よりわが故郷とご遺族ご一家に対して平和の光をさん然と照らして下さっています。謹んで諸霊に報恩感謝の誠を捧げます。

そして、この慰霊法要は、未来永劫にわたって継承し世界の恒久平和を誓い、重ねてそのご加護を仰ぎ申し上げます。

9 命の橋



基本情報

所 在 : 安賀多橋北詰 延岡商工会議所前
 住 所 : 宮崎県延岡市中央通3丁目
 (JR延岡駅 徒歩16分)
 建 立 者 : 「命の橋」座石建立の会、延岡市「命の橋」実行委員会
 建 立 年 : 平成25年2月11日
 連 絡 先 : 今山大師 0982-32-5290

碑 文

【表】

命の橋

【裏】

「命の橋」

太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五年）

六月二十九日に、延岡市内の中心部は
 大空襲によって焼け野原となりました。

その時、安賀多橋の下へ多数の
 市民が逃げ込み助かりました。

この橋はまさに命の恩人です。

この度、延岡市制施行八十周年を
 記念して安賀多橋を

「命の橋」として顕彰し、永久に
 平和の尊さを後世に伝えたいと思います。

平成二十五年二月十一日

建立者 「命の橋」座石建立の会
 延岡市「命の橋」実行委員会

表題揮毫 植野聖鳳

撰 文 吉田千鶴子

石材寄贈 (有)林田石材

10 日南市戦没者追悼式



※写真提供 日南市

開催概要 (平成25年度)

歳事名：日南市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：日南市文化センター
 住所：宮崎県日南市中央通1-7-1
 (J R日南駅 徒歩3分)
 日時：平成25年8月18日(日) ※例年8月第3日曜日開催
 参列者数：約400人
 連絡先：日南市戦没者追悼奉賛会事務局(日南市 福祉課) 0987-31-1130

式次第 (平成25年度)

1. 開 式
2. 国 家 斉 唱
3. 黙 と う
4. 式 辞…日南市長 崎田恭平
5. 追 悼 の 辞…宮崎県知事、県選出国會議員、日南市議會議長、日南市遺族連合会代表
6. 来 賓 紹 介
7. 誓 い の こ と ば…日南市立油津中学校 生徒会長
8. 献 花
9. 主催者あいさつ…日南市戦没者追悼奉賛会 副会長
10. 閉 式

式 辞 (平成25年度)

本日ここに、戦没者ご遺族並びに多数のご来賓の皆様のご列席のもと、平成25年度 日南市戦没者追悼式を挙げるに 当たり、市民を代表しまして式辞を申し述べます。

多くの尊い命が失われた先の大戦が終わりを告げてから、68年という年月が過ぎ去りました。

祖国の平和と発展、そして何よりも家族の安泰を念じながら、戦禍に倒れ、あるいは、愛する家族を思いながらも再び郷土の地を踏むことなく、遠い異国の地で多くの方が、亡くなりました。

ここに改めて、戦没者の皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

また、最愛の肉親を失った悲しみに耐え、苦難を乗り越えられたご遺族の皆様には深く敬意を表します。

私たちは今、当たり前のように享受している平和と繁栄は、戦争によって心ならずも命を落とされた戦没者の方々の重く尊い犠牲の上に築きあげられてきたものです。

本市は、新日南市誕生1周年にあたる平成22年に、美しい自然や平和な未来を後世に残していくため、あらゆる国の人々の相互理解と協調による核兵器のない平和な世界の実現に向けて努力することを決意し、非核平和都市宣言をいたしました。

戦争を知らない私たち若い世代は、過去の悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、しっかりと受け継いでいき、さらに次の世代へと語り継ぎ、平和を築いていくことが、現代を生きるものに課せられた責務であり、使命であります。

本日、戦没者各位の御霊を前にして、私たちは先の大戦から学び取った多くの教訓を忘れることなく、世界の恒久平和を願うとともに、戦没者の方々の祖国発展への思いを深く心に刻み、青い海と緑の山々に囲まれた自然豊かな日南の、この恵まれた自然環境を基礎とし、先人が築いてこられた伝統・文化を生かしながら、本市の活性化を図り、市民の皆様とともに、誇りある郷土を創り上げてまいります。

そして、郷土日南市の繁栄と、平和で安心して心豊かに生活できる社会を築くために全力を尽くすことを固くお誓い申し上げます。

終わりに、日南市の戦没者2,601柱の御霊がとこしえに安らかに鎮まりますことをお祈りいたしますとともに、ご遺族並びに ご参列の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

平成25年8月18日
 日南市長 崎田 恭平